

岡病防第16号  
令和3年10月5日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

令和3年度病虫害発生予報第7号

令和3年10月5日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	トビイロウンカ	—	少
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	<b>やや多</b>
果 樹	カメムシ類	—	並
キュウリ	褐斑病	—	やや少
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病 ハクサイべと病 軟腐病 黒腐病 コナガ ヨトウガ アブラムシ類 モザイク病 ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ オオタバコガ	— — — 並 — — — — — — —	並 <b>やや多</b> やや少 並 並 並 <b>やや多</b> <b>やや多</b> <b>やや多</b> 並 並
キ ク	ナミハダニ オオタバコガ	— —	<b>やや多</b> 並

## 1. 普通作物

### (水稲)

#### 1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 9月24～27日の巡回調査(中南部地帯)では発生は確認されず、平年(22.9%)より低かった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

### (ダイズ)

#### 1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,223頭で平年(2,250頭)より多かった。

イ. 9月2、3日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は9.9%で平年(16.1%)より低かった。

ウ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和3年度植物防疫情報第7号(9月17日発表)参照。

## 2. 果樹(全般)

#### 1) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシは103頭で平年(78.4頭)よりやや多く、クサギカメムシは4頭で平年(5.4頭)並、ツヤアオカメムシは128頭で平年(131.6頭)並であった。

防除上の参考事項

ア. 9月下旬以降主要種はツヤアオカメムシである。

## 3. 野菜

### (キュウリ)

#### 1) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月28日の巡回調査によると発生圃場率は66.7%で、平年(92.7%、過去10年のうち8年間は100%)よりやや低かった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によると発生圃場率は25.0%で、平年(26.7%)並であった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によると発生圃場率は33.3%で、平年(6.3%)より高かった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によると、ダイコンでは発病圃場率は11.1%で平年(25.7%)よりやや低かった。ハクサイでは発生を認めず、平年(1.3%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年(3.7%、過去10年のうち8年間は0%)並、ハクサイでは平年同様発生を認め

なかった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

5) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年(1.8頭)並であった。

イ. 9月27、28日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が50%で平年(39.7%)並、キャベツでは0%で平年(6.0%)並、ハクサイでは0%で平年(1.0%)並であった。

ウ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや多  
モザイク病 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は1,585頭で平年(809頭)より多かった。

イ. 9月27、28日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が12.5%で平年(4.5%)よりやや高く、キャベツでは0%で平年(2.5%)よりやや低く、ハクサイでは0%で平年(2.5%)よりやや低かった。

モザイク病は、ダイコンの発生圃場率が44.4%で平年(9.3%)より高く、ハクサイでは発生を認めず、平年(0.9%)並であった。

ウ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,223頭で平年(2,250頭)より多かった。

イ. 9月27、28日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和3年度植物防疫情報第7号(9月17日発表)参照。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年(2.4頭)並であった。

イ. 9月27、28日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月27、28日の巡回調査によると発生圃場率は40%で、平年(1.7%)より高かった。

イ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年(2.4頭)並であった。

イ. 9月27、28日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月30日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、  
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

